



年頭のご挨拶

会長 木下 毅

あけましておめでとうございます。私も11月に後期高齢者になりましたが、もう少し山口県病院協会会長を続けようと思っていますのでよろしくお願い致します。

平成30年の医療保険・介護保険の同時改定、地域医療構想、地域包括ケアシステムの構築など2025年の大きな変革に向けた動きがいよいよ本格化します。さらに、国の財政赤字、少子高齢化社会の中で病院がどのような将来構想を描けるかが今後の

の病院経営に大きく影響すると思われます。

地域医療構想の調整会議が各医療圏で始まりました。地域に必要なベッド数を確保する為に行うことになっていますが、マスコミの報道等ではベッド数削減ありきで、世間や一部病院関係者もそう思っている様です。山口県ではいずれの医療圏でもベッド数は地域医療構想の計画数よりも多くなっています。

山口県では2040年頃には人口は大きく減少します。しかも高齢者の数はあまり減らなく、ほとんどは労働人口の減少です。すなわち、病院で働く人が減る可能性が大きいです。各病院は入院患者数、職員数をみながら経営を考えて行かなければならないと思っています。山口県では開業医も勤務医も全国に比べて高齢化が進んでいます。地域医療構想を機会に若手医師が山口県に増える様な魅力ある病院づくりが必要と思っています。山口県の人口は140万を割りました。今後も減少の傾向が続きます。この様な状態の中で各病院は今後の展開を考えて行く必要があります。医師だけでなく看護師・看護補助者・介護職員も確保が難しくなっています。各病院でも地域医療構想とは関係なく病床削減も考えなければいけない時期も来ると思っています。素早い情報収集と経営分析が重要だと考えます。

医療制度や診療報酬はますます複雑化しています。そのための対応はとても大変で、現場で実際に患者さんへの直接ケアの時間が制約されてきています。

人員増が望めない中いかにして制度を簡略化するかを現場から声をあげて行かないといけないと思います。ロボット導入やICT、AI導入が言われていますが効果は定かではありませんし、大きな費用がかかりそうです。それよりもまず制度の簡略化で直接ケア時間を確保しないと、少子高齢化、人口減少世界では現在の医療を続けられないと考えます。病院団体は一致して主張して行かなければなりません。山口県病院協会でもそれぞれの上部組織を通じて訴えて行こうと思っています。

いろいろ問題のある年になりそうですが、今年も皆様にとって幸せな年になりますように祈って年頭のご挨拶といたします。

CONTENTS (目次)

山口県病院協会会長挨拶	1 ページ
山口県医師会会長挨拶	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
病院スタッフコーナー	4～5 ページ
研修会報告	6～8 ページ
諸会議報告	9 ページ
事務長部会コーナー	9 ページ
お知らせコーナー	10ページ

年頭所感

年頭所感



山口県医師会

会長 河村 康明

あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新年を穏やかにお迎えになったこととお慶び申し上げます。

平素は、山口県医師会の会務運営並びに事業活動に対しましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、本年もよろしくお願い申し上げます。私が昨年6月に県医師会長に就任して以来6か月が経過しましたが、医療を取り巻く環境は依然厳しく、少子高齢化に伴う医療提供体制の再構築や、医師の地域偏在、診療科偏在の問題、さらには医療の高度化等に伴う医療費の増大への対応など、多くの問題が山積しております。

こうした医療に関する様々な問題の解決のためには、国において医療に関わる財源確保が十分に図られることが何より急務であります。

しかし、最近の財政主導による医療費等社会保障費の削減政策により、地域医療に大きな影響が出てきておりますが、むしろ社会保障の充実により国民の不安を取り除き、より一層安定した社会をつくっていく必要があります。

さらに、国においては消費税10%への引き上げを2019年10月まで延期されましたが、高齢になっても健康で生き甲斐をもって働き続けることによる一億総活躍社会を実現していくためには、医療・介護の財源をしっかりと確保することが必要です。そのためには、県民が十分な医療・介護のサービスを受けられるよう医療・介護の担い手である医療機関等の経営が安定して成り立つための適切な財源を確保していくことこそ重要であります。

我々医療関係者は、安心かつ安全で質の高い医療提供体制を確保するため、医療関係団体、関係機関等がこれまで以上に一致結束することが大切であると考えております。本年も、貴会をはじめ、医療関係団体との連携を一層深めながら、医療界の新たな創造に努め、県民の皆さんに安心していただけるような、明るくて希望あふれる良い年にしなければならないと決意を新たにしております。

山口県医師会は、医療が抱える様々な課題に積極的に取り組むとともに、国民皆保険制度を堅持し、県民から信頼される医療提供体制の実現に向けて全力で取り組むこととしておりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

終わりに今年1年の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



協会役員コーナー

激動の中 新年を迎えて



医療法人和同会
片倉病院

理事長 高橋 幹治

あけましておめでとうございます。

イギリスのEU離脱・米大統領選挙でのトランプ氏勝利。昨年、どこを読み違えたのか、まさかの世界秩序の大転換が始まりました。

日本医療界にも迅速な変革が求められています。ある冊子に“地域医療構想は「分捕り合戦」ではなく医療圏について共通認識を持つ場”のタイトルで、病院団体会長と厚労省地域医療計画課長との対談が載っていました。“調整会議は病床削減が目的ではなく「収れん」に向けた議論の場”という趣旨で説得力のある内容でした。

しかし山口県の場合、「折り合い良い調整」か「既得権益の奪い合い」かは大きな問題ではないと考えます。現状では制度変化等で、今後も多くの病院で稼働率が下がり、減床かデチューン（ダウングレード）を迫られるのは必然です。連携や役割分担は整えるとして、重要なのは若い医師・看護師等、医療関係者がその「収れん」された構造に

充分足りているか、将来的に質・量確保できるのかという事です。山口大医学部を卒業した何割が地元に残って頑張ってくれるのでしょうか。

昨年11月の土曜の夕刻、全国医療法人経営セミナーが終わってホテルを出ると京都駅前ロータリーで「ちよるる」が羽織袴姿で踊っているのを発見。近づくと思わずデスティネーション山口という事で他のユルキャラに交じって観光客誘致に奮闘する姿でした。他業界でも新たな街創りに懸命です。

利用者目線を忘れず、力を入れるポイントを外さなければ医療デスティネーション山口も期待大だと思っています。

年頭雑感



医療法人社団
宇部興産中央病院

特別顧問 福本 陽平

新年、明けましておめでとうございます。

昨年はオリンピックイヤーでリオ五輪は盛り上がり、4年後の東京開催に向けて日本はすでに走り出していますが、東京都の新都知事は膨れ上がる予算に難色を示し、波乱含みのようです。昨年の明るいニュースとしては、ノーベル医学生理学賞に東京工大の大隅良典教授が選ばれ受賞されたことです。今後、老化現象や神経難病の研究、および、その治療の開発に光が当たりそうです。

一方、今年の4月からスタートする予定であった新専門医制度は、昨年の7月に暗礁に乗り上げ、この新制度を主体的に進めてきた日本専門医機構は、理事の8割を入れ替えて1年先送りして開始すると言っています。この制度は、初期研修後の若手医師の将来の進路を決定するものであり、一方、各大学医学部や専門医修練施設にとっては、入局者やレジデントを獲得するために新制度への対応が必須となりました。そこで、山口大学医学部を始めとして県下の病院では、昨年、

相当な意気込みで新研修カリキュラムを作成しました。ところがこの間に各方面から横やりが入り、本機構の理事長が交代するという予想外の事態が生じ、新制度の開始には難航が予想されます。厚労省や日本医師会には静観してもらい、これまで専門医の認定を行ってきた医学会組織と日本専門医機構には、お互いの協調と妥協とが求められます。

病院スタッフコーナー

地域と連携した病院を目指して



医療法人玖玉会
玖珂中央病院
医療連携室

室長 河村 幸

新年、明けましておめでとうございます。

当院は、山口県の東部岩国市玖珂町にあり、山陽自動車道の玖珂インターから約4キロメートル（車で約10分）の位置に在ります。車社会の今日、広島市内から約一時間で行き来ができ、交通の便もよく、高齢化率は高いものの人口減少はさほど見られない地域となっています。

昭和57年9月に開院し今年で35周年を迎える当院は、医療療養病床148床の地域密着型の病院です。

私は昭和62年より当院に勤務し、医事業務と入院相談を行っています。勤務当初は一般病棟のみでしたが、途中より療養病棟101床を取り入れました。しかし、平成12年に介護保険制度が始まると同時に、一般病棟（47床）、介護療養病棟（52床）、療養病棟（49床）の3本柱で運営していく事となりました。また、超高齢化社会を迎え、度重なる医療制度の改革により運営方法を悩みつつも現在では、療養病棟1（20：1）、療養病棟

2（25：1）で運営しています。また、一昨年には在宅復帰機能強化加算を導入し、近隣の急性期病院、介護施設等と連携を図りつつ各関係病院・施設を訪問し、近況報告をさせていただきました。また、積極的に各種行事等に参加し情報交換を行っています。そして病院職員の方や地域の方々と交流を深めて行く中で、これからの医療が最良の形として、また、少しでも皆様のお役に立てたらと思っています。

最後に、これから先も高齢化社会の波は押し寄せてきます。今後、時代の流れの中で病院の在り方が、どのように進んで行き変化して行くのか、研究模索しつつ病院関係者の皆様と連携し、一生懸命頑張りますので今後ともよろしくお願い致します。

地域に密着した医療を目指して



医療法人社団愛命会
大田病院
看護師・作業療法士

久保田 絵実

新年あけましておめでとうございます。

当院は、精神保健福祉法並びに障害者自立支援法の趣旨に沿い、患者様の人権尊重と社会復帰促進に努め、地域に密着した開かれた精神科医療を病院の基本方針とした、204床の一般病棟・療養病棟を有する精神科病院です。

当院には、訪問看護・デイケアもあり、退院後の患者様の生活を支え、地域で暮していく為の支援もしております。また、同じ敷地内に介護老人保健施設「しまた川苑」もあり、連携を取りながら、患者様の状態に応じ、必要な医療・介護サービスが受けられるよう取り組んでおります。

私は当院で作業療法士として勤務していましたが、当院の訪問看護に帯同する中で、在宅で支える重要性や難しさを知り、患者様が退院後に家族や地域社会とどう向き合っているのか、何に不便さを感じているのかに大きな関心を持ちました。そこで一念発起し三年をかけ昨年看護師免許を取得しましたので、将来は二つの資格を生かし訪問看護の分野で力を発揮できればと思っています。

昨今、精神科医療は様々な面から注目を浴びており、今以上に開かれた医療が求められています。情報発信と個人情報との間で悩む事も多くありますが、多職種で連携を図り、より良い医療・介護サービスを目指し、地域で患者様を支える一員となれるよう今後も頑張っていきたいと思っています。

病院スタッフコーナー

新年を迎えて、開院30年節目の年を迎えて



医療法人聖比留会
厚南セントヒル病院

事務課長 樋之津 学

新年明けましておめでとうございます。

当院は宇部市の西に位置する、内科、循環器内科、消化器内科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科を標榜する、一般病棟及び療養病棟を有しているケアミックス病院です。特に泌尿器科においては、人工透析治療を中心に行っております。

2015年春には新透析棟が増設されました。透析液の最高水準の清浄化を実現すると共に、ゆったり1.2m以上のスペースをとったベッド間を持つ快適透析空間となりました。更には、増加する独居高齢者、高齢外来透析患者のニーズに答えるための取組の一例として、新たに介護事業にも参入し、サービス付高齢者向け住宅を病院に併設開所し、デイサービスも開始いたしました。

2017年今年は、開院30年の節目の年に当たります。私が入社してから20年が経過し、21年目に突入いたします。ハード面につきましては、本館は数年前から一部改修等を行い、前述の新透析棟の増築も含め、患者様に安全で安心なより良い環境で治療を受けていただける様、維持管理に努めております。ハード面はお金を掛ければいいものを作れますが、ソフト面はそういうわけにはいきません。自分自身もそうですが、数年前から病院全体で取り組んでいる接遇向上の強化を図り、今後も地域に奉仕できる選ばれる病院であるための努力を続けていきたいと思っております。

わたしの瞑想



社会福祉法人恩賜財団済生会支部
山口県済生会下関総合病院
緩和ケア内科科長

医師 河田 竜一

あけましておめでとうございます。

皆さんは今年一年をどのように過ごしますか。今年こそは新たにあれに挑戦しよう、これ続けてみよう、それぞれの胸に秘めたものがあると思います。この拙文をたまたま読んでの方だけにそっとお教えするなら、わたしは瞑想を続けようと思います。ここだけの話、昨年の夏頃から毎朝10分間、静かに座っています。瞑想の正確な定義を知らないで、これを瞑想と呼ぶかどうか確かではありません。きっかけはある本を読んだことで、突然に始めてみました。携帯電話のタイマーを10分にセットし、畳の上にあぐらをかいて座る。目を閉じてタイマーが鳴るまで何もせずにただ座る、それだけです。特別なルールは決めていませんが、あごを引いて背筋を伸ばし、頭の中に浮かぶことはそのまま放っておきます。

私たちは、日々常に何かの刺激に触発され、それに反応するということを繰り返しています。また何をするかという行動の選択もしています。そんななかで、何にも反応せず、ただ座るという行動、何もしないということを選択するのです。ところでそれをして何かいいことがあるのか、おそらく未体験の皆さんはたずねるでしょう。どんな効果があるのか、どのくらいすると効果が出るのか、知りたいでしょう。でも瞑想によってわたしにどのような変化が起きたかは語りません、わたしの瞑想ですから。興味のある方は、ご自分の瞑想をしてみてください。

研修会報告

平成28年度 病院栄養関係職員医療安全対策研修会

平成28年9月29日（木）山口県総合保健会館多目的ホールにおいて病院栄養関係職員医療安全対策研修会が開催され、188名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「食中毒予防のための正しい衛生管理について」

講師 宇部フロンティア大学 人間健康学部

教授 尾家 重治 氏

テーマ 「食物アレルギー ～アナフィラキシー・除去食・経口負荷試験・経口免疫療法～」

講師 山口大学医学部小児科学講座

准教授 長谷川 俊史 氏

テーマ 「災害時緊急対応 ～あなたの施設は災害時対策は万全？～」

講師 山口大学医学部附属病院栄養治療部

副部長 有富 早苗 氏



尾家 重治氏



長谷川 俊史氏



有富 早苗氏

尾家氏は、さまざまなデータや最新の実験結果などをもとに、古い知識や誤った認識に変わる衛生管理の新しいスタンダードを提唱された。

続く長谷川氏は実際の症例をあげて、基礎の説明から医療・給食現場での対応まで解説され、食物アレルギーへの理解を深める講演となった。

最後に、有富氏自身が経験された病院の台風被害を踏まえ、栄養部門としての災害への備えを説明された。「たかが食事、されど食事」「食は元気を与える」という有富氏の言葉に、食から医療を支える参加者たちは熱心に聴き入っていた。



研修会風景



社会福祉法人恩賜財団
済生会支部
山口県済生会豊浦病院
栄養士 田尾 郁恵

～病院栄養関係職員医療安全対策研修会を実施して～

9月29日（木）に開催された研修会には、栄養士・管理栄養士、調理スタッフの皆様が参加され、熱心に学ばれました。

前回に引き続き「食中毒と消毒」では、最新の情報を網羅されていました。特に興味深かったのは、ウォシュレットの効果を検証され栄養科や調理スタッフのトイレ設備は最高級のウォシュレットである必要性を提言された内容でした。次に、増加している「食物アレルギー」について基礎知識から事故症例について学び、口腔アレルギー症候群という概念を知ることができました。これは、原因食品が殆どの野菜や果物での発症となるので、加熱が基本であるため、調理上の注意事項も含まれていました。最後に「災害時の緊急対応」では、台風18号の影響で浸水した様子がスライドで紹介されました。この経験をもとに備蓄内容、ライフラインが復旧するまでの調理方法や配膳方法、指示系統など貴重な情報を得ることができました。さらに、病院全体での訓練を繰り返すことで、その都度の検証と反省を行い「備える」心構えの重要性を学びました。

どのご講演も明日からの業務にすぐに生かせるものであると同時に、自分たちの施設の備えが万全かを検討する機会にもなりました。

また、展示には多くの業者からのご協力をいただき、情報交換が活発に行われていました。

今回も企画にご賛同いただき、ご準備ならびにご協力をいただきました病院協会様に心より感謝いたします。

研修会報告

平成28年度 病院中堅看護師研修会

平成28年10月25日（火）山口県総合保健会館第一研修室において病院中堅看護師研修会が開催され、110名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「がん患者の意思決定支援」

講 師 総合病院山口赤十字病院
看護師長 金子 美幸 氏

テーマ 「リーダーシップ&コーチング」

講 師 山口県病院協会 理事
独立行政法人国立病院機構
関門医療センター
病院長 林 弘人 氏



金子 美幸氏



林 弘人氏

金子氏は、医療現場においては意思決定を重ねながら医療が進められると前置きし、看護師には、患者の意向を尊重しつつ情報を整理して伝えるために時には言葉以外の表情や沈黙も活用するコミュニケーションスキルが必要となってくると解説された。

林氏は「教えることは学ぶことである」として、コーチングについて講演された。具体的なスキルの数々について説明の後、ロールプレイによってコーチング技術を使わなかった場合と使った場合で指導にどれだけ違いが出てくるかを示され、研修会の参加者たちは、自らも学習しつつ仲間を増やしていく教育姿勢について学びを深めていた。



研修会風景



総合病院
山口赤十字病院

看護師 大村 友理

～病院中堅看護師研修会に参加して～

私は今回、中堅看護師研修会に参加させていただき、中堅看護師である自分に求められる役割と今後の課題について学ぶことができました。

まず、金子先生による講義では、患者さまやご家族が意志決定をするときに看護師はどのような支援をする必要があるのかを学ぶことができました。私の病棟ではがん患者さまが多く入院されており、患者さまやご家族が意志決定をする場面に立ち合うことがよくあります。今回、講義に参加し「がん看護とは意思決定支援の連続であり、その支援のためにはコミュニケーションが重要である」ということを学びとても私自身の中で響くものがありました。不安の中で現状を受け入れようとしている患者さまを支えるためには、ご家族、多職種と良好なコミュニケーションを図ることが大切であることを再認識することができました。今後、コミュニケーションスキルを強化し、患者さまの意思を尊重し患者さまが1日1日を大切に過ごせるように支援していきたいと思います。

林先生による講義では、「リーダーシップ&コーチング」についてそれぞれ中堅看護師としての役割を学ぶことができました。中堅看護師となり、リーダーシップを発揮しなければならない状況で、自信を失うこともありました。リーダーとして行動しつつ、自分自身も学び続けるのが中堅看護師の難しさであるが、林先生からの講義によりリーダーとして指導的なことを行う中で、後輩看護師に具体的で共に育む共育的立場で関わるのが大切であるという学びを得ることができました。

研修会報告

平成28年度 病院看護師長研修会

平成28年11月30日（水）山口県総合保健会館第一研修室において病院看護師長研修会が開催され、120名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「看護師長のリーダーシップが現場を変える」

講 師 萩市民病院

看護部長 宮内 美智代 氏

テーマ 「病院における勤務医と看護師長の役割」

講 師 山口県病院協会 副会長

一般財団法人防府消化器病センター

防府胃腸病院

理事長 三浦 修 氏

宮内氏は、ひとつの看護体系を受け持っている師長には組織の中で働く自覚としっかりした基軸が必要であり、それによってブレない意思決定が可能になると解説。一方で職場の人間関係を良好に保ち人を育てるための様々なスキルや理論も紹介された。

続いて三浦氏は、専門医制度や医師数の推移など、直近のデータによる全国と山口県の医療界の現状から説明された。マンパワーが不足していくなか、多職種で連携・補完し合うことで本来の専門的な看護業務にあたれるようになるだろうとの講演に、参加者は熱心に聴き入っていた。



宮内 美智代氏



三浦 修氏



研修会風景



一般財団法人防府消化器病センター
防府胃腸病院

看護部長 中村 章子

～病院看護師長研修会に参加して～

今回、自施設での看護管理者としての役割を再認識することを目的に看護師長研修会に参加しました。日々慌ただしい環境の中で看護管理を行っており、管理についてゆっくりと考える機会がありませんでした。その中で今回の講師の先生方のご講演はとても意味深く、管理者としての実践に活かせるものでした。

宮内先生のご講演では、看護管理者のリーダーシップの考え方について、様々な視点でお話を聴かせていただきました。まず、看護管理者はスタッフに自分の看護観を語り、揺るぎない「基軸」を持って看護部全体の看護の質を保証していかなければならないこと、そのためには、コンセプチュアルスキル、つまり本質を見極める能力、論理的思考力、問題解決能力、応用力が必要になることを学びました。現在の役割の中で、これらの能力を鍛錬しながら、常に自分を内省し、スタッフにとって働きがいのある職場作りをし

ていかなければならないことを実感しました。

また、三浦先生の講演では、山口県の医療の現状を踏まえての医師、看護師の現状と役割、看護師長の役割、多職種共働の必要性について学びました。病院では各専門職種によるチームでの活動が不可欠であり、それにより患者さんに適切な医療を提供することができます。そのためには、看護管理者が中心となり看護部と他部署との連携の役割を果たさなければならぬと再認識しました。

今回の研修会での学びを活かし、看護職員が主体的に行動できるようにリーダーシップを発揮し、看護管理者としての役割を果たしていきたいと思います。

諸会議報告

平成28年度 第4回理事会

日 時 平成28年11月18日（金）15：30～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

1. 平成28年度山口県病院協会収支予算の執行状況について
2. 「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」に対する後援について

【協議事項】

1. 四県病院協会連絡協議会に提出する議題等について
2. 冬季医療経営講習会の開催について
3. 災害時必要物品並びに設備、施設に関するアンケートについて

【報告事項】

1. 平成28年度診療報酬改定影響度調査票について
2. 山口県選奨 保険衛生・環境功労賞受賞について

3. 第12回医療関係団体新年互礼会について

4. 県各種委員会等の結果報告について

木下会長

・山口県医療審議会医療法人部会 （10月31日）

玉木理事

・山口県看護職員確保対策協議会 （11月17日）

【その他】

平成28年度 第3回情報管理委員会

日 時 平成28年12月9日（金）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 新年号の発行について
2. 4月号の発行準備について
3. その他



事務長部会コーナー

平成28年度 山口県病院協会事務長部会 第1回常任幹事会

日 時 平成28年12月1日（木）17：00～

開催場所 新山口ターミナルホテル

【議 題】

1. 平成28年度第2回事務長部会研修会について
2. 平成29年度第1回事務長部会研修会について
3. 四県病院協会連絡協議会に提出する議題等について
4. 平成29年度事務長部会総会の開催について
・平成29年度役員改選について
5. その他



山口県病院協会事務長部会 各支部会議報告

開催支部と研修会等テーマは次の通り

【下関支部】

開催日 平成28年10月25日（火）

場 所 下関看護リハビリテーション学校2階会議室

- 議 題
1. 立入検査、中国四国厚生局監査、機能評価等の情報交換
 2. 災害時の対応について
 3. 病院広報について
 4. 地域医療介護総合確保基金（医療分）の事業提案募集



お知らせコーナー

平成28年山口県選奨受賞（山口県病院協会推薦）

医療法人神徳会 三田尻病院

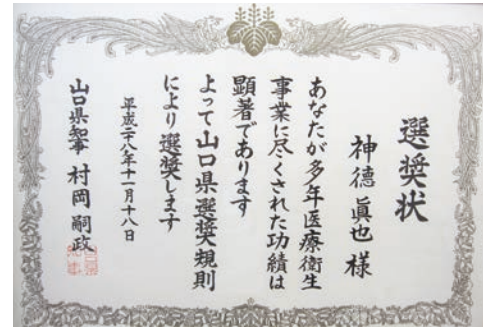
理事長 神徳 眞也 先生

教育や芸術、文化、スポーツの振興、産業や福祉などに功績があった人をたたえる県選奨の表彰式が11月18日県庁で行われ、保健衛生・環境功労部門において山口県病院協会理事の神徳先生が受賞されました。

神徳先生は、山口大学医学部附属病院等を経て平成元年より三田尻病院に勤務。平成4年には病院長、平成22年からは理事長として病院経営に当たりつつ、地域において急性期を担う医療機関の医師として、地域医療・福祉の発展に尽力されました。

その間、山口県病院協会理事・常任理事、山口県医療審議会委員、防府医師会会長等も歴任。医療分野の発展・向上に寄与した功績は顕著であることにより今年度の県選奨受賞となりました。

心よりお祝い申し上げます。



山口県庁にて村岡知事、奥様と共に

会員等の異動

会員の変更

・岩国みなみ病院

理事長 野坂 誠士

（変更前 理事長 村山 正毅）

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|--------|---------------------|------------------|
| ○1月7日 | 新年互礼会 | （会場：ホテルニュータナカ） |
| ○1月19日 | 第5回理事会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○1月26日 | 総務委員会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○1月27日 | 四県病院協会連絡協議会 | （会場：ホテルグランヴィア広島） |
| ○2月24日 | 冬季医療経営講習会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○3月7日 | 第2回診療報酬改定影響度調査検討委員会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○3月10日 | 金融懇談会 | （未定） |
| ○3月17日 | 事務長部会研修会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○3月24日 | 第6回理事会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○3月下旬 | 正副会長・顧問会議 | （未定） |
| ○3月下旬 | 県医師会・県病院協会懇談会 | （未定） |

編集後記

新しい年が始まりました。2017年新年号をお届けします。木下会長、河村山口県医師会長の年頭のご挨拶では、医療を取り巻く環境がますます厳しさを増す中、力強いお言葉をいただきました。昨年10月に開催された病院中堅看護師研修会では、リーダーシップについて講演する機会をいただきましたが、両会長を拝見していると、まさしく我々のロールモデルであると感じた次第です。◆病院スタッフコーナーでは、河田先生より「瞑想」のご紹介をいただきました。「事柄は外からではなく、それに没入し、それと一つになることによって初めて把握される」、西田幾多郎の「純粹経験」の境地でしょうか。◆世界情勢も混沌としておりますが、各国のリーダーには「迷走」することなきよう切に望みます。（林 弘人）